

# ALESIS

**ControlPad**  
USB/MIDI Percussion Controller



## 取扱説明書



安全にお使いいただくために .....	2
製品をご利用の際は、使用上の注意に従ってください。 .....	2
イントロダクション .....	4
製品登録 .....	4
トップ・パネルの説明 .....	5
リア・パネルの説明 .....	6
接続図 .....	7
パソコンへのインストール方法 .....	8
KIT の説明 .....	9
プログラム・チェンジ・メッセージの説明 .....	10
キットのエディット方法 .....	11
パッドの MIDI チャンネルについて .....	11
パッドのノート・ナンバーの変更方法 .....	12
グローバル・パラメーターの説明 .....	13
SENSITIVITY (感度) について .....	14
VELOCITY (強弱) について .....	15
THRESHOLD (スレッシュホールド) の調節方法 .....	16
グローバル・メッセージの送り方 .....	17
ALL NOTES OFF .....	17
RETURN TO DEFAULT VALUE .....	17
FACTORY RESET .....	17
MIDI SysEX (システム・エクスクルーシブ) について .....	18
ControlPad と BFD Lite の使い方 .....	19
ControlPad のデフォルト・セッティング (工場出荷時のパッド割り当て) .....	20
キット・パフォーマンスの調整 .....	22
キットのカスタマイズ .....	23
その他のアプリケーション .....	24
ファクトリー・プリセット・マッピング .....	25
トラブルシューティング .....	30
KEY FEATURES .....	32
コンピューターの最低システム必要環境 .....	32
サイズ・重量 .....	32
MIDI IMPLEMENTATION CHART .....	33
アレスリス限定保証 .....	34
Alesis 窓口情報 (日本国内) .....	34

## 安全にお使いいただくために

### この取扱説明書で使用している、危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。



**製品をご利用の際は、使用上の注意に従って下さい。**

1. 注意事項を読んで下さい。
2. 注意事項を守って下さい。
3. すべての警告に従って下さい。
4. すべての注意事項に従って下さい。
5. 水の近くで使用しないで下さい。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用して下さい。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないで下さい。
7. 取扱説明書に従って、設置して下さい。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用して下さい。アース端子付きの電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わない時は、専門の業者にコンセントの取替えを依頼して下さい。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意して下さい。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意して下さい。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用して下さい。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用して下さい。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意して下さい。台車をご利用の場合は、装置を載せたまま移動する時、傾けて装置に損傷を与えないよう注意して下さい。



13. 雷が鳴っている時や、長時間使用しない時は、プラグを抜いて下さい。



14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせ下さい。電源コードやプラグが破損した時、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりした時、装置が雨や湿気にさらされた時、正常に動作しない時、本体を落とした時等、故障の際は、修理が必要となります。

15. 本装置は正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所をご利用下さい。

16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談下さい。

17. 水がかかるような場所に置かないで下さい。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないで下さい。

18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないで下さい。

## イントロダクション

アレス「ControlPad」USB/MIDI パーカッション・コントローラーのご購入おめでとうございます。軽くて便利な持ち運び便利なフル・サイズ・エレクトリック・ドラム・セット「ControlPad」は、リズム・パフォーマンスやプログラミングの決定的なアイテムです。アレスは最新の楽器を演奏するミュージシャンのために電子機器とコントローラーを作製することを誇りに思います。私たちは、ControlPad が今日の音楽家のための必要なツールであると信じます。ControlPad はリズムを生み出すことに理想的なアプローチをします。

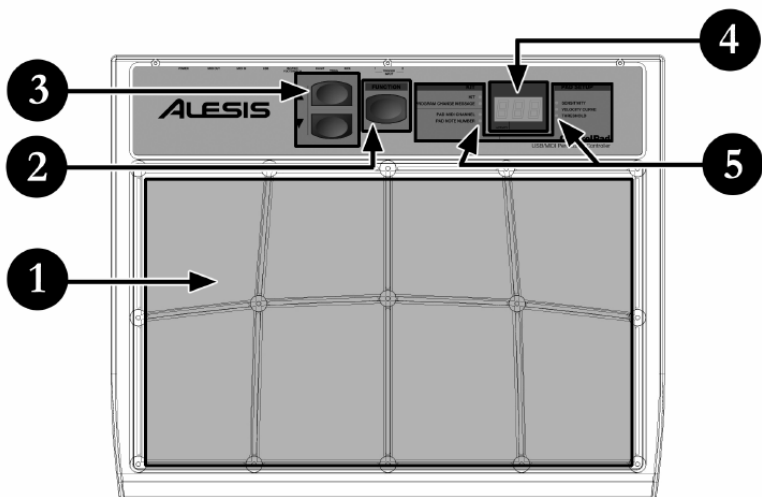
私たちは、お客様がこの製品を楽しむことを望みます。

ALESIS 社員一同

## 製品登録

<http://www.alesis.jp>にて ControlPad の製品登録をしましょう。登録をすることにより、私たちは保証を維持することによりお客様を支援します。製品登録は、最新の情報およびソフトウェアをお客様の製品に利用可能にすることを保証します。また、お客様のフィードバックは私たちが向上させます。今後も夢のある ControlPad のような最先端の製品を提供していきます。

## トップ・パネルの説明



1

**プレイング・パッド(8個)**  
ベロシティ・レベル対応のパッド

2

**ファンクション・ボタン**  
オペレーションを選択するときに使用します

3

**▲/▼ ボタン**  
これらの 2 個のボタンはプリセットの移動や、パラメーターを選択している場合は値を変更させるために使用します

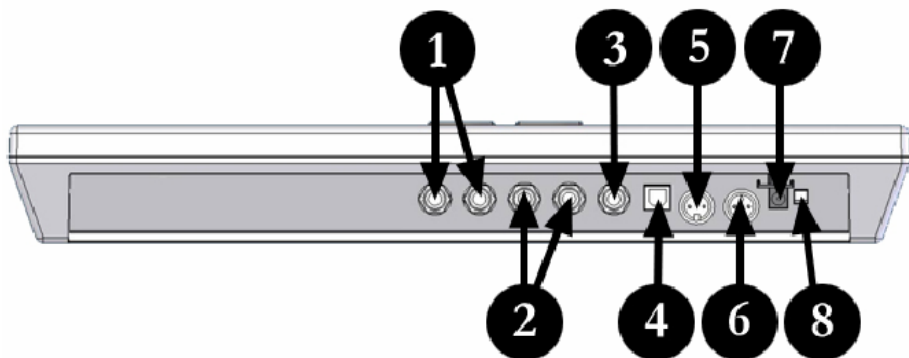
4

**LEDスクリーン**  
キット・ナンバーやファンクション・パラメーターのディスプレイ。またこのスクリーンは、パッドを叩いた時、またはペダルを踏む度に点灯します。

5

**ファンクション LED**  
ファンクション LED は エディット・モード時における各機能と連動します。エディット・モード時は、これらの LED はどの機能が現在編集されているか示します。

## リア・パネルの説明



### 1 外部パッド接続用トリガー入力×2

これらの2つのトリガー入力は1/4"TSケーブルを使用して接続します。

### 2 フット・スイッチ・ペダル入力×2

これらの2つのフット・スイッチ・ペダル入力は1/4"TSケーブルを使用して接続し、バス・ドラム、ハイハットのペダルとして使用します。

### 3 デュアル・フット・スイッチ

この2つのデュアル・フット・スイッチ・ペダル入力は1/4"TRSケーブルを使用して接続し、キットのアップ/ダウンをします。

### 4 USBポート

USBポートはControlPadとコンピューター間のMIDIデータを送信するために使用します。USBポートを使用時は電源供給されるのでアダプターは必要ありません。

### 5 MIDI入力ポート

5ピンのMIDIケーブルを使用して他の機器のMIDI出力ポートに接続します。ControlPadはMIDIインターフェイスとして機能し、USBポートを通じて入ってくるMIDIデータを送ります。この入力にはコンピューター上で「USBオーディオ・デバイス[2]」もしくは「USBオーディオ・デバイス [2]エミュレート」と表示されます。

### 6 MIDI出力ポート

5ピンのMIDIケーブルを使用してドラムマシンやシンセサイザーのMIDI入力ポートからのケーブルを接続します。

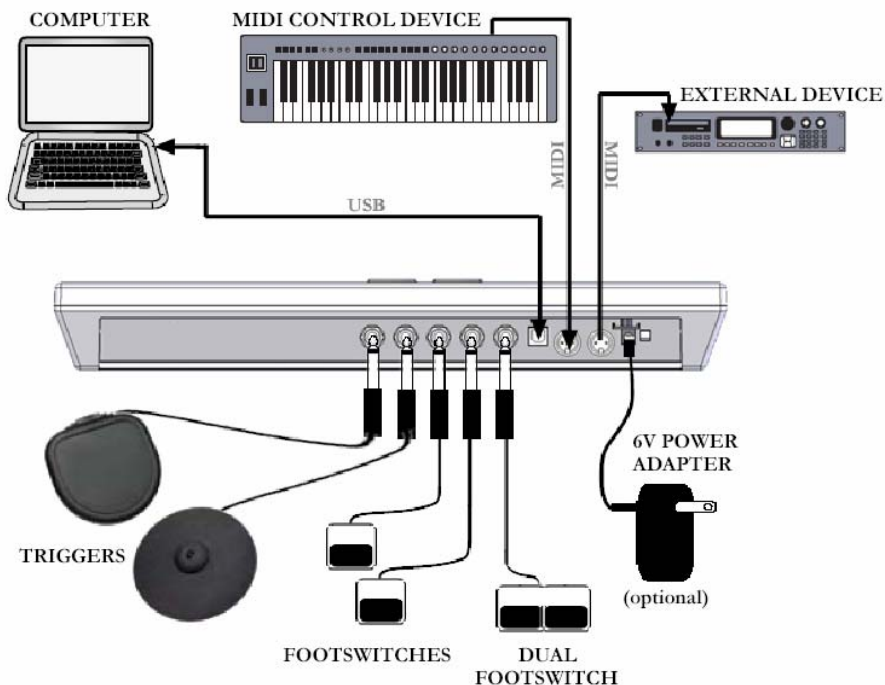
### 7 電源アダプター入力ジャック

USBポートを使用していない時はこちらから電源アダプター(同梱)を入力します。

### 8 電源ON/OFFスイッチ

ControlPadの電源ON/OFFスイッチ

## 接続図



### 設置の仕方

- ・テーブル・トップ - スペースの広くとれた平らな場所にそのまま置きます。
- ・スネア・スタンド - スネア・スタンドに ControlPad を安全に置きます。
- ・タム・スタンド、シンバル・スタンド - マウント・ブラケット(別売り)を使用して、タム・スタンドかシンバル・スタンド等に ControlPad をマウントすることが可能です。

1. ControlPad の電源を入れる前に、パソコンやフット・スイッチ等の接続機器を接続します。パソコンと ControlPad を接続する際は各 USB ポートを USB ケーブルで接続します。

2. ControlPad の電源を下記のどちらかの方法で供給します。

- a: パソコンの USB ポートから電源供給します。
- b: 6V DC アダプター(同梱)から電源供給します。

3. リア・パネルの電源スイッチを入れます。

## パソコンへのインストール方法

ControlPad はドライバーやソフトウェアのインストールは必要なくプラグ・アンド・プレイできます。ControlPad とパソコンを接続すると自動的に USB デバイスに認識されます。

### ControlPad のアプリケーション認識方法

1. パソコンと ControlPad の各 USB ポートを USB ケーブルで接続します。  
パソコンと ControlPad を接続の際はパソコンから電源供給します。パソコンと別々に電源供給をするときは 6V DC アダプター(同梱)から電源供給します。
2. リア・パネルの電源スイッチを入れます。電源を入れるとディスプレイが表示されます。

ControlPad の認識確認をするには、パソコンとの接続時に ControlPad の電源を切った状態で、パソコンと接続後に ControlPad の電源を入れると認識が簡単にできます。

3. アプリケーションを開きます。
4. 次に、MIDI 入力デバイスとして ControlPad を選択してください。通常、ソフトウェア・アプリケーションのプリファレンス・セッティングの中で行われます。

Windows XP では、「USB オーディオ・デバイス」あるいは「USB オーディオ・デバイス(emulated)」として ControlPad が認識されます。また、ControlPad の MIDI IN ポートは、「USB オーディオ・デバイス 2」あるいは「USB オーディオ・デバイス 2(emulated)」として認識されます。MIDI 入力が両方ともアクティブであることを確かめてください。



(Cubase LE を例にすると左記のようになります。デバイス→デバイス 2の設定→All MIDI Inputs)

5. ControlPad は、ソフトウェア・アプリケーションと共に使用する準備ができました。

### オーディオ・レイテンシーについて

オーディオ・レイテンシーは、サウンドカードに準じます。これは、コンピューターに入ってくるデータ(例えば MIDI ノートのイベント)を処理したり音声の出力をするために負荷がかかります。レイテンシーはコンピューターの速度が速ければ、少なくなるでしょう。サウンドカードのレイテンシー(あるいはバッファー)が低い数にセットされることを確かめてください。ControlPad のパッドを叩いた時、コンピューターは音を速やかに出力するでしょう。レイテンシーとバッファーは通常、プリファレンス・セッティングの中で調節します。一般的に、レイテンシーが約 15-20msより長い場合、パッドを叩いた時に音の遅れに気づき始めます。

あまりにも長いレイテンシーがまだある場合は、インターネットから無料ダウンロード可能で、幅広く活用されているドライバー、ASIO(Audio Stream Input/Output)ドライバーのダウンロードをしましょう。こちらからダウンロードできます。www.asio4all.com。一般的に ASIO ドライバーは短いレイテンシーで、オーディオとソフトウェアの効率的なコミュニケーションを可能にします。

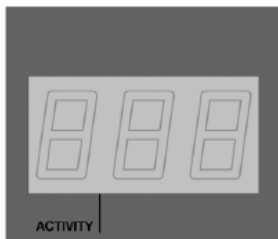
## KIT の説明

### KIT

- KIT ●
- PROGRAM CHANGE MESSAGE ●

---

- PAD MIDI CHANNEL ●
- PAD NOTE NUMBER ●



### PAD SETUP

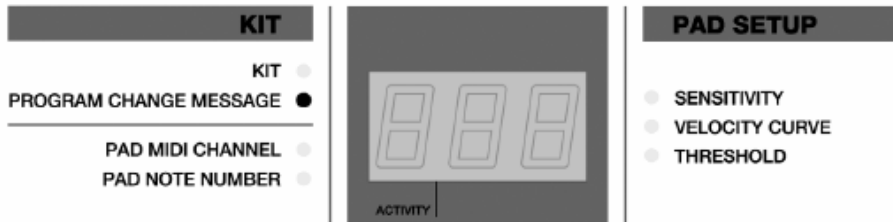
- SENSITIVITY
- VELOCITY CURVE
- THRESHOLD

ControlPad は電源を入れると自動的にキット・セレクト・モードに入ります。キットの隣の LED ランプ(緑)が点灯している事を確認してください。別のモードを選択している時は、キットの隣の LED ランプ(緑)が点灯するまで、FUNCTION ボタンを数回押して、キット・セレクト・モードに戻ります。

キット・セレクト・モード中は、▲/▼ ボタンを使用して異なるキットを選択します。あなたが値によって歩むとともに、ControlPad は自動的にキットをロードし、数値修正も自動的にストア可能な 21 のキットがあります。

ControlPad のプリセットのキットは、パッドあるいは外部トリガー等の MIDI チャンネル、ノートナンバーをアサインしてあります。これらのセッティングは変更可能です。

## プログラム・チェンジ・メッセージの説明



プログラム・チェンジは、パッチ・チェンジとも呼ばれ、新しいプログラムに変わらせるデータを送るために使用する MIDI メッセージです。これは、ハードウェアまたはソフトウェアに伝えることを可能にします。例えば、あなたの ControlPad があなたの DAW もしくは外部機器でロック・ドラム・セットをコントロールしている場合、プログラム・チェンジを使用してエレクトロニック・キットに簡単に変更することを可能にします。プログラム・チェンジ・メッセージは、変更可能です。

ControlPad のそれぞれのキットはプログラム・チェンジ・メッセージ(0-127)を持つことができます。これは、DAW か外部 MIDI 機器上に異なるセットを組むことを有効にします。初期設定では、それぞれ “----” になっております。“----” のままですとプログラム・チェンジは送りません。

### プログラム・チェンジ・メッセージの仕方

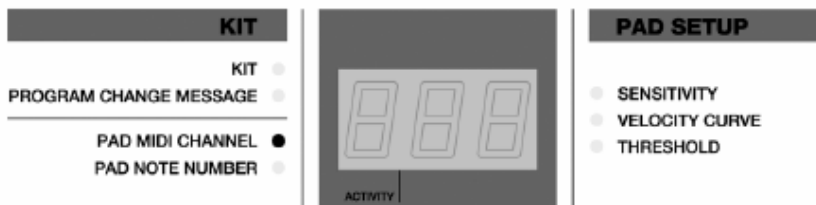
1. FUNCTION ボタンを数回押して、プログラム・チェンジ・メッセージの LED ランプ(赤)が点灯させます。
2. プログラム・チェンジ・メッセージの変更は▲/▼ ボタンを使用して変更します。変更したプログラム・チェンジ・メッセージは自動的に保存され、そのキットだけに影響します。
3. 変更したプログラム・チェンジ・メッセージは、キットをロードするごとに、DAW か外部 MIDI 機器に送られます。

## キットのエディット方法

キットのエディットは、ControlPad をカスタマイズするための重要なツールです。キットの編集中は、スクリーンに表示された情報は常に最後に叩いたパッド、フットスイッチ・コントローラーのパラメーターに反映します。パッド、フットスイッチ・コントローラーのパラメーターを修正するためには、パッド、フットスイッチ・コントローラーを打ってください。この呼び出し方法は「チェイス・モード」とも呼ばれます。各パッド、フットスイッチ・コントローラーの修正することができるパラメーターは MIDI チャンネルとノートナンバーです。

MIDI チャンネルとノートナンバーは、選択したパッド、フットスイッチ・コントローラーのみに影響します。

### パッドの MIDI チャンネルについて



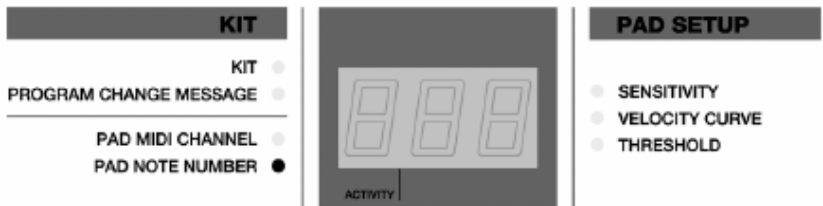
これはパッドかトリガーが情報を送っている MIDI チャンネルです。パッドや外部トリガーはそれぞれ個別のチャンネルで送信をセットすることができます。

例えば、異なるパッドを備えた、異なる機器あるいはモジュールをコントロールしようとしており、MIDI 情報が特定の機器によってのみ受け取られることを確かめたければ、これは非常に便利です。この場合、外部のシンセサイザーかサンプラー異なる MIDI チャンネルを読むことができます。その後、異なるパッドにそれらの異なる MIDI チャンネルを送ると、パッドが特定の機器とつながります。

### パッドの MIDI チャンネルの変更方法

1. FUNCTION ボタンを数回押して、パッド MIDI チャンネルの LED ランプ(赤)を点灯させます。
2. MIDI チャンネルの変更をしたいパッドを叩き、呼び出します。
3. パッドかトリガーの現在の MIDI チャンネルが表示されます。
4. ▲/▼ ボタンを使用して MIDI チャンネルを変更します。レベル変更は自動的にロードされます。

## パッドのノート・ナンバーの変更方法



これはパッドかトリガーが送っている MIDI ノートナンバーです。

例えば、外部ドラム機器をコントロールしている時、キック、スネアあるいはハイ・ハットに関連した別の MIDI ノートナンバーがあります。初期設定では反応しないかもしれません。恐らく、スネアは、別のパッドにアサインされています。パッドのノートナンバーは、外部ハードウェアかソフトウェアのスネアノートナンバーと一致するように変更できます。

### ? Notes

パッドかトリガーを叩いた場合、ControlPad はドラム機器あるいはソフトウェアに「この音を発音する」と MIDI ノートを使用してメッセージを送ります。ドラム・サンプル、キーボードあるいはシンセサイザーをコントロールしている時もしていない時も、常に MIDI ノートを送っています。

### パッドの MIDI ノートナンバーの変更方法

1. FUNCTION ボタンを数回押して、パッド・ノート・ナンバーの LED ランプ(赤)を点灯させます。
2. MIDI ノートナンバーの変更をしたいパッドを叩き、呼び出します。
3. パッドかトリガーの現在の MIDI ノートナンバーが表示されます。
4. ▲/▼ ボタンを使用して MIDI ノートナンバーを変更します。ここでのノート・ナンバーはゼネラル MIDI(GM)仕様で、例えば C1=24 になります。レベル変更は自動的にロードされます。

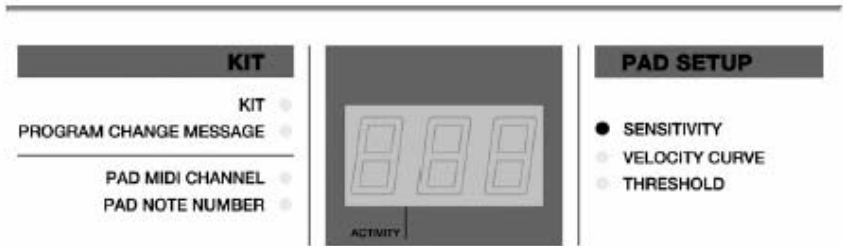
## グローバル・パラメーターの説明

ControlPad は一般的な方法で SENSITIVITY(感度)、VELOCITY (強弱)、THRESHOLD(スレッシュホールド)のパラメーターを変更できます。これらのパラメーターはキットを変更しても、セッティングは残ります。

グローバル・パラメーターは、キットのすべてのパッドとトリガーに影響するでしょう。

グローバル・パラメーターは、スタイルに合った ControlPad を完全にカスタマイズすることを可能にします。SENSITIVITY(感度)、VELOCITY (強弱)、THRESHOLD(スレッシュホールド)の調節は、ControlPad 上に最適化されます。

## SENSITIVITY(感度)について



SENSITIVITY(感度)パラメーターは、パッドかトリガーがどのように反応するかを設定します。SENSITIVITY(感度)パラメーターで高感度にセッティングすると、最高出力を到達するためにパッドとトリガーをあまり強く叩く必要はありません。一方、SENSITIVITY(感度)パラメーターで低い感度にセッティングするとパッドとトリガーを強く叩かなくてはなりません。また、パッドかトリガーを叩くと、VELOCITY(強弱)が最高値(127)を達成することがありますので、より低い値にセッティングしましょう。この行程はユーザー本人のプレイスタイルにダイナミクスを表現するうえで重要です。

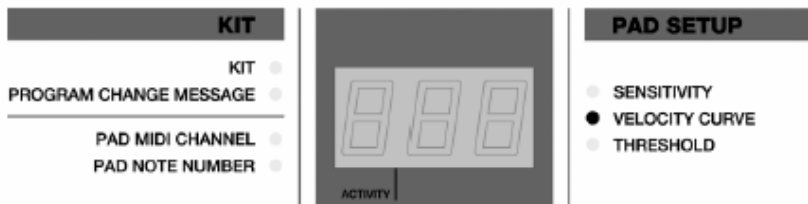
パッドを叩く時、振動によりが別のパッドが発音される事があります(トリガーでも同様です)。特にパッドの端を叩くと隣接したパッドの音と同時に発音します。これを回避するためにはパッドの中心を叩いてください。

パッドの SENSITIVITY(感度)調節はある程度のクロス・トーク(振動による発音)を防ぐ事ができるかもしれませんが。例えば、叩いたパッドより別のパッドの方が反応が良い場合、その近隣のパッドが発音するかもしれません。その際は近隣のパッドの SENSITIVITY(感度)を弱めることでクロス・トーク(振動による発音)を防ぐかもしれません。また、叩いたパッドの SENSITIVITY(感度)が弱すぎると、強く叩く事になり隣接したパッドは同様に発音するかもしれません。その時は SENSITIVITY(感度)を増加させることでクロス・トーク(振動による発音)を防ぐかもしれません。

### SENSITIVITY(感度)の調節方法

1. SENSITIVITY(感度)を変更したいパッドかトリガーを叩き呼び出します。
2. FUNCTION ボタンを数回押して、SENSITIVITY(感度)の LED ランプ(赤)を点灯させます。
3. パッドかトリガーの SENSITIVITY(感度)レベルが表示されます。
4. ▲/▼ ボタンを使用して SENSITIVITY(感度)レベルを変更します。レベルは 0～20 です。レベル変更は自動的にロードされます。

## VELOCITY (強弱)について



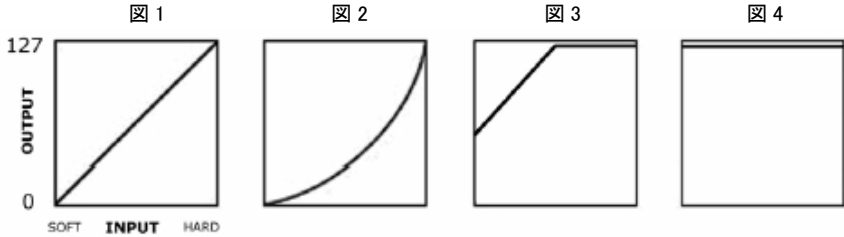
VELOCITY (強弱)カーブは、パッドとトリガーの入力速度(パッドがどれくらい強く叩いたか)の比率に基づいた速度情報をどのように出力するか説明します。パッドとトリガーの VELOCITY (強弱)をカスタマイズする事によりプレイ・スタイルに反映します。異なる VELOCITY (強弱)カーブは異なるインプット/アウトプット比率に関係しているので、異なるレスポンスを引き起こすでしょう。ユーザーに合ったセッティングをいろいろ試しましょう。

### Velocity とは？

VELOCITY (強弱)はノートのボリュームまたは明るさをコントロールするために使用されます。すなわち、細かいニュアンスを出すには VELOCITY (強弱)カーブを調整する事が重要になります。

### VELOCITY (強弱)の調節方法

1. VELOCITY (強弱)を変更をしたいパッドかトリガーを叩き呼び出します。
2. FUNCTION ボタンを数回押して、VELOCITY (強弱)の LED ランプ(赤)を点灯させます。
3. パッドかトリガーの VELOCITY (強弱)レベルが表示されます。
4. ▲/▼ ボタンを使用して VELOCITY (強弱)レベルを変更します。レベルは 1~4 です。レベル変更は自動的にロードされます。



## VELOCITY (強弱)カーブの説明

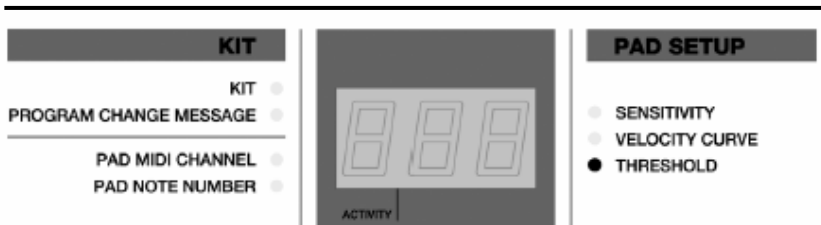
図 1) Linear: 直線形の出力速度。したがって、強くパッドかトリガーを叩けば大きく出力される設定。

図 2) Exponential: ソフトな叩き方では狭いダイナミック・レンジ、その一方でハードな叩き方ではより広いダイナミック・レンジの設定。

図 3) Offset: 49 までのオフセットを備えた出力設定。弱くパッドを叩いても 50~127 の間で出力。その一方でよりハードな叩き方だと 127 の一定の出力。

図 4) Constant Curve: パッドかトリガーをどんな強さで叩いても常に 127 で出力。

## THRESHOLD (スレッシュホールド) の調節方法



スレッシュホールドの調節は、誤ったトリガリングを防ぐ事ができるかもしれませんが。スレッシュホールド値は、パッドかトリガーに登録され、出力データに必要とされます。このスレッシュホールド値はユーザーのスタイルを合わせてセットします。一番プレイしやすいセッティングを探しましょう。

### THRESHOLD (スレッシュホールド) の調節方法

1. THRESHOLD (スレッシュホールド) を変更をしたいパッドかトリガーを叩き呼び出します。
2. FUNCTION ボタンを数回押して、THRESHOLD (スレッシュホールド) の LED ランプ (赤) を点灯させます。
3. ▲/▼ ボタンを使用して THRESHOLD (スレッシュホールド) レベルを変更します。レベルは 1~126 です。レベル変更は自動的にロードされます。

## グローバル・メッセージの送り方

ControlPad には利用可能な 3 種類のグローバル・パラメーターがあり、「ALL NOTES OFF」、「RETURN TO DEFAULT VALUE」、「FACTORY RESET」になります。これらの設定は通常使用する事は少ないですが、便利な機能ですのでおぼえておく和良好的でしょう。

### ALL NOTES OFF

---

この機能は MIDI チャンネルに ALL NOTES OFF の情報を送ります。ALL NOTES OFF メッセージはパッドを叩いても音がノート・オフされます。この行程は誤ったノートから回復するために使用します。

#### *ALL NOTES OFF* メッセージの送り方

- ・ ▲/▼ ボタンを同時に 2 秒以上押します。

### RETURN TO DEFAULT VALUE

---

この機能は、デフォルト値(初期設定値)のパラメーターをセットします。

#### *RETURN TO DEFAULT VALUE* メッセージの送り方

- ・ 瞬間的に▲/▼ ボタンを同時に押します。

### FACTORY RESET

---

この機能は、工場出荷時のセットアップに全てリセットします。時々、以前に変更すぎてオリジナルの設定を忘れる事があります。全てをオリジナルの設定に戻したい時に使用します。

#### *FACTORY RESET* メッセージの送り方

- ・ ControlPad の電源を切った状態で、▲/▼ ボタンを同時に押しながら電源を入れ、2 秒以上押し続けます。

## MIDI SysEX(システム・エクスクルーシブ)について

MIDI SysEX(システム・エクスクルーシブ)は、USB か MIDI 接続と ControlPad 間でパラメーターとプログラム・データを転送することを可能にします。SysEx ソフトウェア・エディターを使用して、インターネット上から最新の情報を速く転送することができます。

*ControlPad にデータ転送を要請する方法:*

1. ControlPad が MIDI か USB のどちらかで SysEX(システム・エクスクルーシブ)に接続されることを確かめてください。
2. FUNCTION ボタンを押しながら、▲/▼ ボタンを同時に、2 秒以上押し続けます。

*ControlPad にデータを転送する方法*

1. ControlPad が MIDI か USB のどちらかで SysEX(システム・エクスクルーシブ)に接続されることを確かめてください。
2. 通常どおりにプレイ状態すれば SysEX(システム・エクスクルーシブ)データは ControlPad に送られます。

## ControlPad と BFD Lite の使い方

ControlPad は、高品質ドラム・サンプルの BFD Lite ソフトウェア・ドラム・モジュールを同梱しています。この組み合わせにより、本物のドラム・セットをコントロールするようにプレイできます。

一度、BFD Lite ソフトウェアをインストールしたならば、すぐにプレイすることができます。下記は BFD Lite を使用するにあたり、基礎的な方法を紹介します。

BFD Lite ソフトウェアのインストールについては、インストール CD に添って行ってください。

1. ControlPad に同梱されている BFD Lite をインストールします。
2. ControlPad を USB ケーブルを使用してパソコンと接続します。

### ！重要

ControlPad で外部トリガーあるいはフットスイッチも使用する時はパソコンに接続する前に ControlPad に差し込み、その後にパソコンと ControlPad を接続します。このような順序で接続しないと適切に動作しない場合があります。

3. ウィンドウズを使用している場合は Start | All Programs | FXpansion | BFD Lite | BFD Lite Standalone. の順に進みます。

Mac OS を使用している場合は Applications | BFD Lite の順に進みます。

これはスタンド・アローンのモードで BFD Lite を使用する方法です。その他にお好みのシーケンス・ソフト上でプラグ・インとして BFD Lite を使用可能です。

4. ControlPad はプラグ・アンド・プレイで使用できます。それは、一度プレイされたならば、BFD Lite で自動的にプレイできるということを意味します。

パッドを叩いてみましょう。音が出なければ、BFD Lite ソフトウェアは正常な出力として好ましいオーディオ・デバイス（内部サウンドカード、外部のオーディオ・インターフェース等）を使用する準備ができていないでしょう。オーディオ・デバイスを確かめる必要があります。



ウィンドウズでは BFD Lite の左上にデバイス・メニューがあるので、ここから最適なデバイスを選択します。

注: サウンドカードによってはオーディオ・レイテンシーが大きいかもしれません。BFD Lite をスタンド・アローン・モードで使用ならば右上にある **On** **Cfg..** Cfg..(Configuration)ボタンでサウンドカードのバッファの調整ができます。

詳しい情報は「パソコンへのインストール方法」(7 ページ)を参照ください。

5. パッドを叩き、すぐに出力されればオーディオ・デバイスのセットができたことになります。

### ControlPad のデフォルト・セッティング(工場出荷時のパッド割り当て)

ControlPad は、BFD Lite ソフトウェアを使用の際は下記のようなパッドの割り当てになります。Kit モードでプリセットの 0 番で確認しましょう。鼓を打つために自動的に 8 つの詰め物をすべて写像するプリセットで初期化されました。キット・モードの場合 ControlPad の上のプリセットされた 0 を選択することにより、この配置にアクセスすることができます。キットの配置は下のようなグラフィックに記述された通りです:

ControlPad は、BFD Lite ソフトウェアを使用する時、自動的に 8 つのパッドに全てアサインされます。Kit モード時にプリセットの 0 番で、下記のように配置されているか確認しましょう。



この配置では、各パッドが異なる MIDI ノートナンバーに関係していることに気づくでしょう。これは MIDI ノートナンバーが特定のパッドをトリガーする事を意味しています。MIDI ノートがどのように使用されるかの詳細に関してはこのマニュアルの「キットのエディット方法」内の「パッドのノート・ナンバーの変更方法」(11 ページ)。を参照してください。

Kit モード時のプリセットの 0 番のデフォルト・セッティングには、さらに外部トリガー、外部ペダルのデフォルト・プリセットを含んでいます。

INPUT	SOUND	MIDI NOTE NUMBER
KICK INPUT	KICK	36
EXT TRIGGER 1	CLOSED HI-HAT	46
EXT TRIGGER 2	RIDE CYMBAL	49
HIHAT INPUT	HI-HAT OPEN/CLOSE	44 ***

\*\*\* ハイ・ハット入力をフットスイッチ・ペダルで使用する際にハイ・ハットの開閉をパッドをフットスイッチ・ペダル踏む事によって得られます。

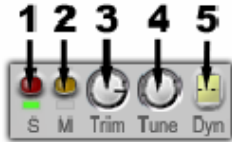
ハイ・ハット入力を利用するために、下記の方法で BFD Lite ソフトウェアをセットします。



※上記の方法でセットできない場合は Hat の「LEARN」ボタンを押しましょう。

## キット・パフォーマンスの調整

それぞれのキットは設定を調整できる項目がいくつかあり、ソロ、ミュート、レベル、チューニング、ダイナミクスの調整が可能です。



1. SOLO(ソロ) このボタンを押すとソロになります。
2. MUTE(ミュート) このボタンを押すとミュートになります。ミュートしていると叩いても再生しません。
3. TRIM(トリム) このノブはボリューム・ゲインです。各キットのレベルを調節します。
4. TUNE(チューニング) このノブは各キットの音のチューニング・レベルを調節します。
5. DYNAMICS(ダイナミクス) このコントロールを使用すると、各キットをソフトな音やハードな音に調整できます。BFD Lite には多くのベロシティ・レイヤーが用意されています。ソフトなセットでジャズ・スタイル、ハードなセットでロック・スタイル等に調整できます。

### 追加情報

英文になりますが BFD Lite ユーザー・マニュアルが付属しています。  
 Start | All Programs | FXpansion | BFD Lite | BFD Lite Manual の順で参照できます。  
 本章(ControlPad リファレンス・マニュアル)で説明している内容は ControlPad との  
 初歩的な使用方法だけですので、詳細はこちらを参照してください。

## キットのカスタマイズ

キットをプレイスタイルに合わせてのカスタマイズできます。パッドに割り当てている MIDI ノートナンバーの変更により、パッドがトリガーしている音色をすぐに変更することができます。そうするためには、パッド・ノートナンバーの LED ランプ(赤)を点灯させ、変更したいパッドを叩き、▲ / ▼ ボタンを使用して異なるノートナンバーを呼び出します。

下記は BFD Lite のデフォルト・ノートナンバーのリストです。パッドを好みの音色に変更する時は、上記のように変更しましょう。

NOTE NUMBER	KIT PIECE	HIT STYLE
56	CYM2	BELL
55	CYM2	HIT
54	CYM1	BELL
53	CYM3	BELL
52	HIHAT	HALF SHANK
51	CYM3	HIT
50	HIHAT	HALF TIP
49	CYM1	HIT
48	HIHAT	CLOSED SHANK
47	TOMH	HIT
46	HIHAT	OPEN TIP
45	TOMM	HIT
44	HIHAT	PEDAL
43	TOMF	HIT
42	HIHAT	CLOSED TIP
41	SNARE	FLAM
40	SNARE	RIM
39	SNARE	DRAG
38	SNARE	HIT
37	SNARE	SIDESTICK
36	KICK	HIT
35	KICK	NO SNARE
24	HIHAT	VARIABLE TIP
33	HIHAT	¾ TIP
32	HIHAT	¾ SHANK
31	HIHAT	¼ TIP
30	HIHAT	¼ SHANK
29	SNARE2	FLAM
28	SNARE2	RIM
27	SNARE2	DRAG
26	SNARE2	HIT
25	SNARE2	SIDESTICK
24	KICK2	HIT
23	KICK2	NO SNARE
22	HIHAT	VARIABLE SHANK

## その他のアプリケーション

	C8 (108)
(106)	B7 (107)
(104)	A7 (105)
(102)	G7 (103)
(99)	F7 (101)
(97)	E7 (100)
(94)	D7 (98)
(92)	C7 (96)
(90)	B6 (95)
(87)	A6 (93)
(85)	G6 (91)
(82)	F6 (89)
(80)	E6 (88)
(78)	D6 (86)
(75)	C6 (84)
(73)	B5 (83)
(70)	A5 (81)
(68)	G5 (79)
(66)	F5 (77)
(63)	E5 (76)
(61)	D5 (74)
(58)	C5 (72)
(56)	B4 (71)
(54)	A4 (69)
(51)	G4 (67)
(49)	F4 (65)
(46)	E4 (64)
(44)	D4 (62)
(42)	C4 (60)
(39)	B3 (59)
(37)	A3 (57)
(34)	G3 (55)
(32)	F3 (53)
(30)	E3 (52)
(27)	D3 (50)
(25)	C3 (48)
(22)	B2 (47)
(20)	A2 (45)
(17)	G2 (43)
(15)	F2 (41)
(12)	E2 (40)
(10)	D2 (38)
(8)	C2 (36)
(5)	B1 (35)
(3)	A1 (33)
(1)	G1 (31)
(0)	F1 (29)
(-2)	E1 (28)
(-4)	D1 (26)
(-6)	C1 (24)
(-8)	B0 (23)
(-10)	A0 (61)

ControlPad は、それらのコントロール・プロトコルとして MIDI を使用する様々なアプリケーションに使用することができます。例えば、ControlPad は音源モジュール、VST インストルメンツのコントローラーとして使用することができます。これは、ControlPad がピアノ、マリンバ、木琴、ピアノあるいはバイオリン等のような楽器を演奏することができることを意味します。

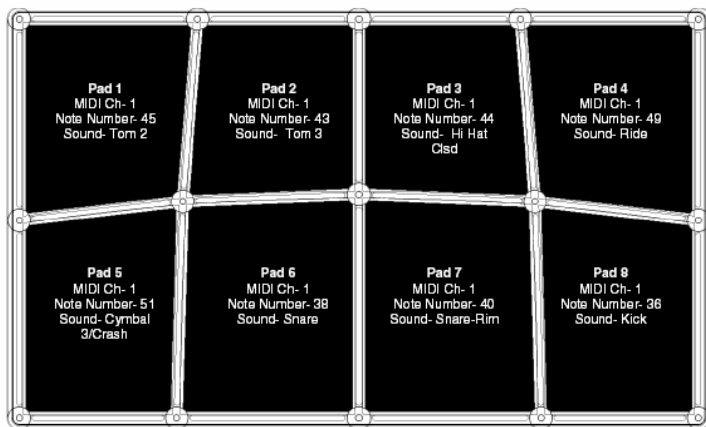
このマニュアルの全体にわたって説明しているように、ControlPad は、ドラムを叩く事を MIDI ノートを使用して行われています。また、MIDI ノートは一般的なピアノ上のキーのように表わします。これは、MIDI 機器(ControlPad を含む)から命令され、コントロールする事を可能にします。

このために、一般的なピアノ上のキーのように MIDI ノートナンバーがどのように相当するか手軽な図があります。( )の中の数字が対応する MIDI ノートナンバーです。

左記の図が早見表として使用できます。

## ファクトリー・プリセット・マッピング

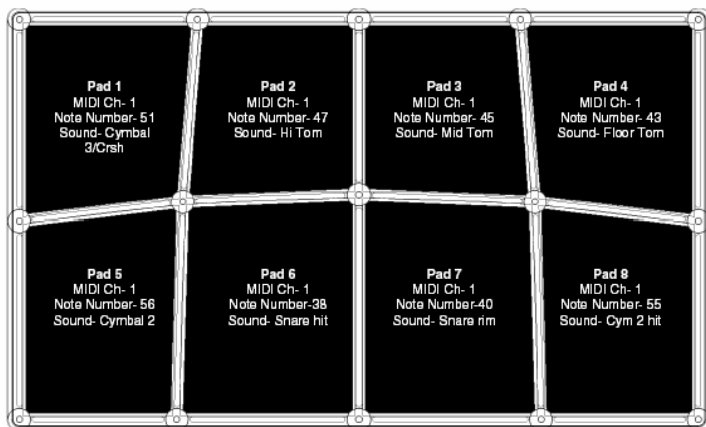
### PRESET 0 – BFD LITE (WITHOUT EXTERNAL TRIGGERS OR PEDALS)



#### INPUTS

Hi Hat Input MIDI Ch- Note Number- Sound- Hi Hat opn/close	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 36 Sound- Kick	Ext Trigger 1 MIDI Ch- Note Number- 46 Sound- clsd hat	Ext Trigger 2 MIDI Ch- Note Number- 49 Sound- ride
---	--	---	---

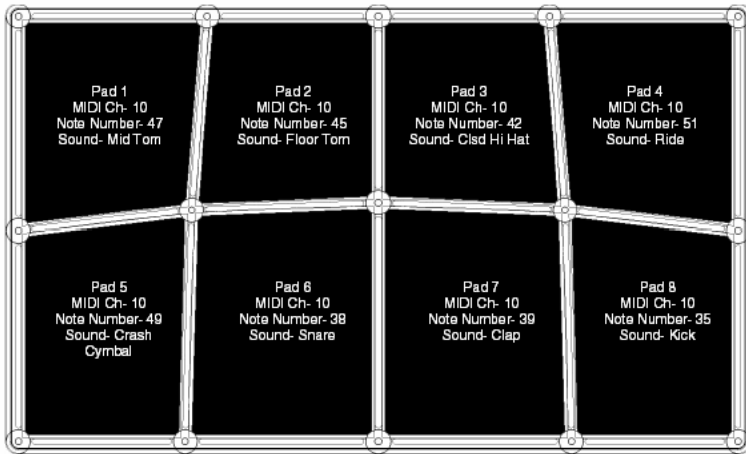
### PRESET 1 BFD LITE (WITH EXTERNAL PEDALS AND TRIGGERS)



#### INPUTS

Hi Hat input MIDI Ch- 1 Note Number- 44 Sound- Pedal Hat	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 35 Sound- Kick	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 46 Sound- Open Hat	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 49 Sound- Cymbal 1-ride
---	--	---	--

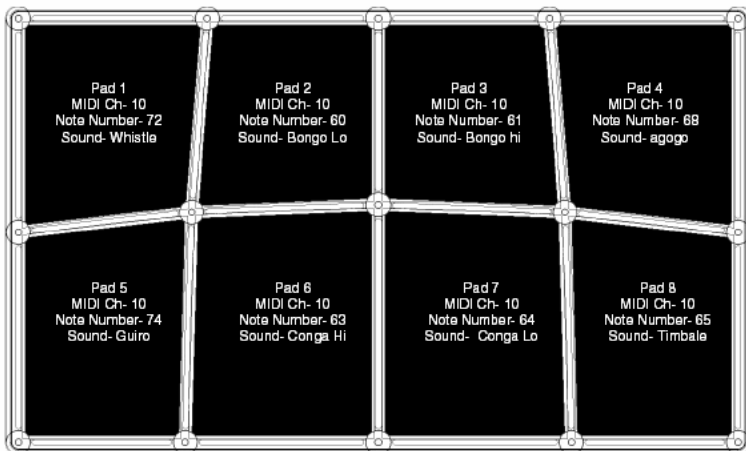
## PRESET 2 GM KIT



### INPUTS

<p>Hi Hat Input MIDI Ch- 10 Note Number- 42 Sound- Pedal Foot</p>	<p>Kick Input MIDI Ch- 10 Note Number- 35 Sound- Kick</p>	<p>Ext Trigger 1 MIDI Ch- 10 Note Number- 46 Sound- open hat</p>	<p>Ext Trigger 2 MIDI Ch- 10 Note Number- 51 Sound- Ride</p>
---	---	--	--

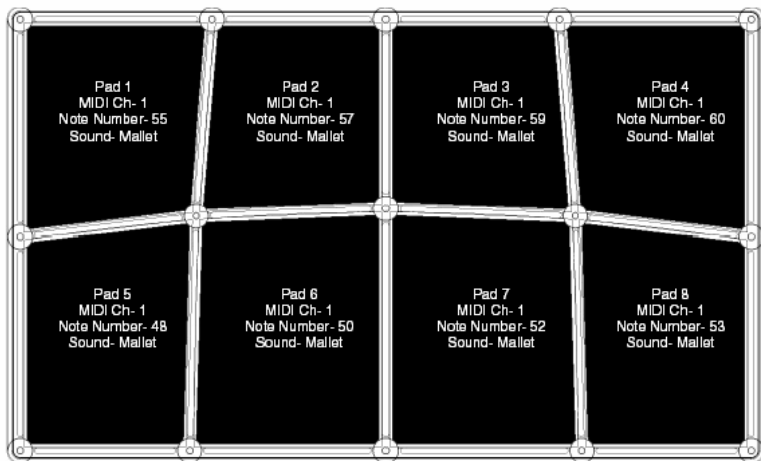
## PRESET 3 GM PERC



### INPUTS

<p>Hi Hat Input MIDI Ch- 10 Note Number- 44 Sound- HI Hat Foot</p>	<p>Kick Input MIDI Ch- 10 Note Number- 35 Sound- Kick</p>	<p>Ext Trigger 1 MIDI Ch- 10 Note Number- 81 Sound- open triangle</p>	<p>Ext Trigger 2 MIDI Ch- 10 Note Number- 59 Sound- ride cymbal</p>
--	---	---	---

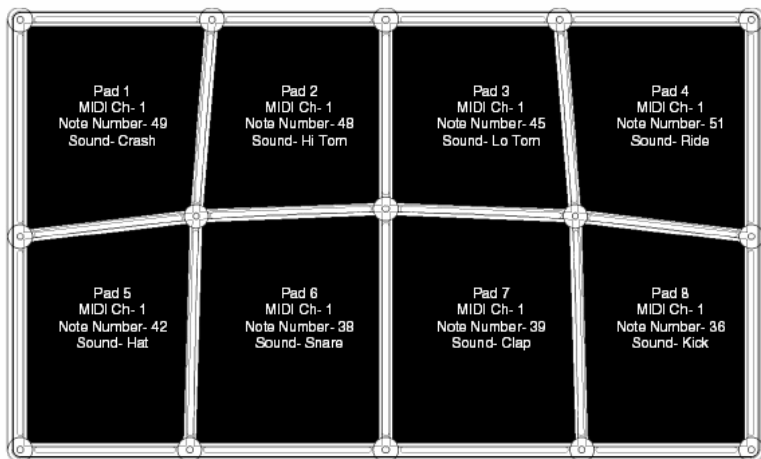
## PRESET 4 GM MALLETS



### INPUTS

Hi Hat Input MIDI Ch- 1 Note Number- 48 Sound- Mallet	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 36 Sound- Mallet	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 72 Sound- Mallet	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 80 Sound- Mallet
--	--	---	---

## PRESET 5 SR-16

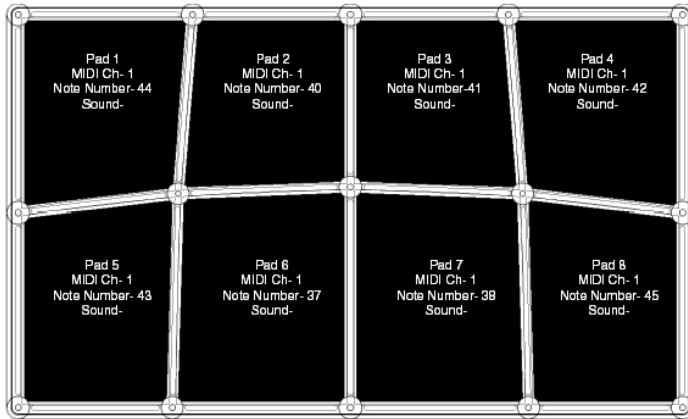


### INPUTS

Hi Hat Input MIDI Ch- 1 Note Number- 42 Sound- hat	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 36 Sound- kick	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 42 Sound- hat	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 51 Sound- Ride
---	--	--	---

## PRESET 6 REASON – REDRUM “GRAIN KIT”

Please note that MIDI note mappings vary between different Redrum kits.



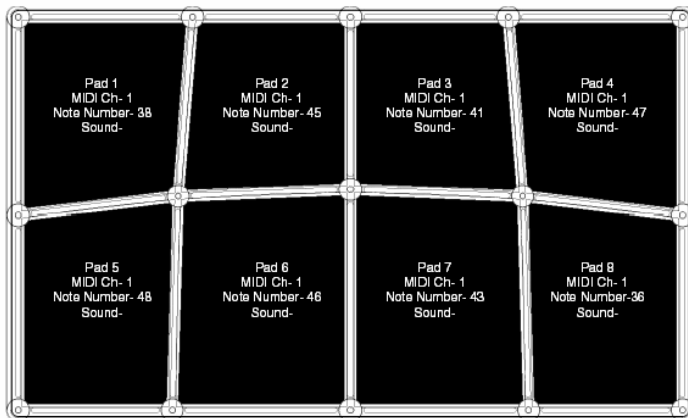
### INPUTS

Hi Hat input MIDI Ch- 1 Note Number- 43 Sound-	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 36 Sound-	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 40 Sound-	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 39 Sound-
---	---	--	--

## PRESET 7 REASON - DR:REX “BADABING”

EXTEND AMP RELEASE TIME TO HEAR COMPLETE SAMPLES

Please note that MIDI note mappings vary between different Dr:Rex kits.

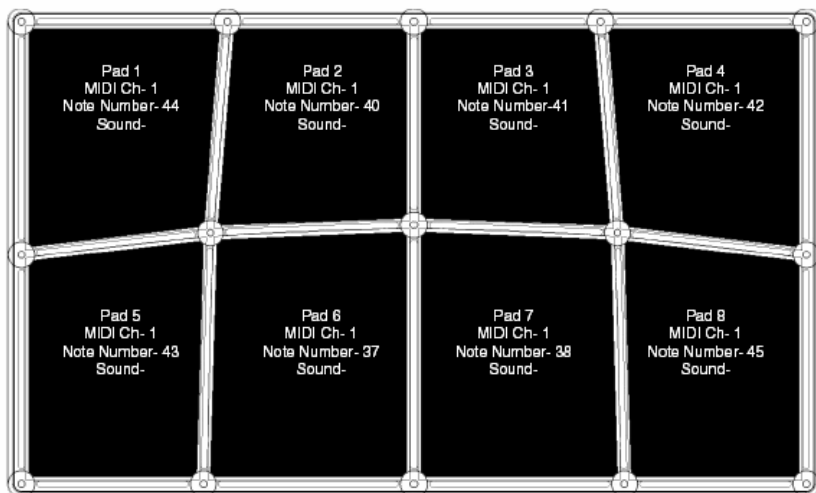


### INPUTS

Hi Hat input MIDI Ch- 1 Note Number- 47 Sound-	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 37 Sound-	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 47 Sound-	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 40 Sound-
---	---	--	--

## PRESET 8 BATTERY 2 "60'S GARRAGE KIT"

*Please note that MIDI note mappings vary between different Battery kits.*



### INPUTS

Hi Hat input MIDI Ch- 1 Note Number- 43 Sound-	Kick Input MIDI Ch- 1 Note Number- 36 Sound-	Ext Trigger 1 MIDI Ch- 1 Note Number- 40 Sound-	Ext Trigger 2 MIDI Ch- 1 Note Number- 39 Sound-
---	---	--	--

## トラブルシューティング

現象	原因	解決方法
LED スクリーン・ディスプレイが点灯しない	電源が入っていない	USB バス・パワーを使用している場合は、ControlPad の後ろの電源スイッチが ON であることをチェックしてください。AC アダプターを使用している場合は、アダプターがコンセントに差し込まれ、電源スイッチは ON であることをチェックしてください。
<MIDI>対象になる機器から出力されない	ControlPad の USB が接続されていない	ControlPad が正確にインストールされることを確認するためにコンピューターの USB 接続をチェックしてください。USB ケーブルの接続を確認後に一度、コンピューターの電源を切り、再び電源を入れましょう。
	USB ハブを使用	USB ハブから ControlPad の USB ケーブルを抜き、パソコンに直接接続してみてください。
	ControlPad からの MIDI データをソフト側セット・アップできない	ControlPad あるいは USB を使用した MIDI 機器がアプリケーション側でアクティブな MIDI ソースとしてリストされることを確認してください。
	ソフト側が MIDI データを受けない。	多くのソフトウェア・アプリケーションには MIDI IN、OUT のインジケーターを持っています。いくつかのパッドを叩いて、MIDI IN が点灯しているものを探してください。
	ControlPad の MIDI チャンネルがソフトウェア・アプリケーションの同じ MIDI チャンネルに入っていない。	ControlPad の MIDI チャンネルはデバイス機器に合わせてください。
	ControlPad の MIDI OUT から 5ピンの MIDI ケーブルが音源の MIDI IN に接続されない	適切な MIDI ケーブルが接続されることを確認してください。

現象	原因	解決方法
外部フットスイッチまたは外部トリガーが逆の動きをする。例えば、フットスイッチを下へ踏んでいる時はノート・メッセージ・オフ、フットスイッチを踏んでない時はノート・メッセージ・オンというように逆になってしまう。	外部フットスイッチまたは外部トリガーは ControlPad の電源を入れた後、入力されました。	ControlPad の電源を切って、少し時間を持った後に電源を入れてください。ControlPad の電源を入れる前に、ControlPad に外部フットスイッチまたは外部トリガーが接続されることを確かめてください。
ノートが連続的に続いている	不完全な MIDI データによる詰まったノート	ControlPad の電源を切って、少し時間を持った後に電源を入れてください。
パッドを叩いた時に隣接したパッドがトリガーされて出力される	正確に SENSITIVITY(感度)はセッティングされていません。	このマニュアルの「グローバル・パラメーターの説明」を参照し、SENSITIVITY(感度)を的確にセッティングしてください。
	パッドの端を叩いた	パッドの端を叩いた場合、隣接したパッドのクロス・トーク(振動による発音)は発生しますので正常な事です。これを回避するためにパッドの中心エリアを叩いてください。
パッドを叩いて、コンピューター上でトリガーされた音があまりにも多くの遅れがある	コンピューター上の USB バスに別のデバイスがある	コンピューターから USB デバイス(特にハードディスクドライブのような比重を重める機器)のプラグを抜いてみてください。
	ソフトウェアのレイテンシーのセッティングが正確ではない	コンピューター上のソフトウェア・セッティングを調節します(すべてのソフトウェアがこれらのセッティングを持っているとは限りません)。レイテンシーについての詳細はこのマニュアルの「パソコンへのインストール方法」を参照してください。
SysEX(システム・エクスクルーシブ)から MIDI-OX を使用すると ControlPad のプリセットが消失する	MIDI-OX アウト・ブット・バッファーが正確にセッティングされていません	アレスシスは SysEX(システム・エクスクルーシブ)に MIDI-OX ソフトウェア・アプリケーションを使用することを推奨していません。それでも MIDI-OX を使用する場合は、出力バッファー・サイズを少なくとも 2048 にセッティングされることを確認してください。

## KEY FEATURES

- ・ 8つのペロシティー対応のハイ・クオリティー・パッド
- ・ 4つの外部入力(外部トリガー×2、フット・スイッチ×2)
- ・ プラグ・アンド・プレイ(ドライバーの必要なし)
- ・ USBコネクター付属
- ・ MIDI IN、OUT 付属
- ・ パッドの SENSITIVITY(感度)の調節可能
- ・ プログラム・チェンジ可能

## コンピューターの最低システム必要環境

- ・Windows XP 以上、またはマッキントッシュ OS 9.x 以上
- ・USB1.1 もしくは 2.0 の USB コネクター

## サイズ・重量

- ・サイズ: W×H×D: 435mm×65mm×350mm
- ・重さ: 3.1kg(アダプター含まず)

## MIDI IMPLEMENTATION CHART

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic	Default	1-16	1 - 16	Memorized
Channel	Changed	1-16	1 - 16	Adjustable by user per pad
Note Number:	True Voice	0-127 0-127	0-127 0-127	
Velocity	Note On Note Off	1-127 0	0 X	
After Touch	Ch's	X X	X X	
Pitch Bend		X	X	
Control Change	4	0	0 *	Foot Pedal CC message
Program Change	True #	0-127 **	X	
System Exclusive		0	0	
System Common	Song Pos Song Sel Tune	X X X	X X X	
System Realtime	Clock Commands	X X	X X	
Aux Messages	Local On/Off All Notes Off Active Sense Reset GM On	X 0 X X X	X X X X X	
Notes: * For use with ControlPad input via MIDI IN only ** 1 Set Per Kit				

O: YES  
X: NO

## アレスシ限定保証

アレスシ・コーポレーション(以下アレスシ)は、本製品の不良パーツ及び機能の不具合に対し、以下の通り保証します。

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証サービスは購入者のみに有効で、第3者に転用・譲渡はできません。

より良いサービスの提供のため、製品をお買い上げいただいた後に、アレスシの Web サイト (<http://www.alesis.jp>)でユーザー登録をして下さい。

保証期間中に、アレスシまたは指定のサービス代理店の検査で不具合が発見された場合には、アレスシはいかなる製品も無償で修理または交換します。本保証に関するいかなる紛争も、法律の規定によって解決します。

保証サービスを受けるために、購入者はアレスシ Web サイトに記載された住所、または電話番号に連絡の上、Return Authorization Number(返品承諾番号)を受け取り、保証サービスを受ける際の返品場所などについて、指示を受けて下さい。お問い合わせの際には必ず、不具合の詳細をお知らせ下さい。保証サービス範囲内での返品は、適切な梱包をした上、元払いでアレスシまたは指定の修理工場にお送り下さい。

返品の場合は、保証書、領収書(レシート)または購入を証明できるその他の有効な書面を添付し、対象製品が保証期間内であることを明らかにして下さい。アレスシは、修理のために返品されたいかなる製品に対しても、最新のものに交換する権利を有します。アレスシは事前の通知なく、いつでも製品の仕様を変更または改良する権利を有します。誤った使用方法、不注意、改造や不当な修理による故障については、保証サービスの範囲外となり、サービスは適用されません。正常な使用状態で、本機のパーツや機能に不具合が生じた場合にのみ、保証サービスが適用されます。

アレスシは、製品の使用不可能または不具合に基づく損害、また法律の定める範囲内での人身傷害を含める、いかなる二次的、及び間接的な損害賠償の責任を負いません。保証条件や本保証に基づきアレスシが負う責任は、販売国の国内でのみ有効です。本保証で定められた修理は、各販売国で正式なアレスシのサービス代理店でのみ行われるものとします。各国ごとの保証サービスについては、それぞれの地元販売店にお問い合わせ下さい。

## Alesis 窓口情報(日本国内)

プロ・オーディオ・ジャパン株式会社

テクニカル・サポート 行

〒220-0022 神奈川県横浜市西区花咲町 7-150 ウエインス&イッセイ横浜ビル 5F

Tel: 045-290-6390

Fax: 045-326-2046

E-mail: [alesis@alesis.jp](mailto:alesis@alesis.jp) Web site: <http://www.alesis.jp>

無断転載、全部または一部の複製を禁ず。仕様は予告なく変更する可能性があります。

**ALESIS**

© 2007 プロ・オーディオ・ジャパン株式会社